

# 国語科学習指導案

平成29年10月21日(火)

## 1 単元名 (2年)

「平家物語」の世界を読み深める～表現が伝わる群読をしよう～

## 2 単元の目標

- (1) 「平家物語」の世界観に触れながら、楽しんで群読に取り組もうとしている。  
(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 「平家物語」に描かれている情景描写や人物の心情を捉えることができる。  
(読むこと イ)
- (3) 「平家物語」の表現の特徴を生かして群読し、古典の世界を楽しむことができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(ア))

## 3 評価基準

国語への関心・意欲・態度	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
「平家物語」の世界観に触れ、文章を根拠にしながら群読の台本作りをしようとしている。	「平家物語」に描かれている情景描写の効果や人物の心情を生かして群読している。(イ)	「平家物語」の和漢混交文の力強さ、わかりやすさや対句などの表現の特徴を生かして群読し、古典の世界を楽しんでいる。 ア(ア)

## 4 単元について

### (1) 本単元を貫く言語活動と扱う教材について

本単元では、学習指導要領第2学年「C読むこと」の言語活動例に示されている「ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること」を踏まえ、情景描写や人物の心情を読み取り、それを生かした群読をするという言語活動を行う。これを通して、擬音語・擬態語など表現描写から考えられる情景を確かめたり、人物像について考えを深めたりして内容の理解をさせたい。文章中に根拠を求めて読み取った情報をグループで交流させて、内容の理解を生かして班ごとに群読の台本作らせ、発表させる。古語の意味や歴史的仮名遣いなど基礎的内容の定着を図った上で、「情景や心情を踏まえて朗読できる」ことを目指す。

群読という言語活動は一人で行う朗読と違い、役割分担をすることで与一の祈念する場面や源平の様子などを表す対句表現、擬声語の読み方等、臨場感がより伝わりやすくするための工夫を凝らすことができる魅力ある活動である。また、情景や心情をうまくとらえられない生徒にも、グループで根拠を挙げながら群読の工夫点を考え、それを生かす活動を通して文章の読み取り方などが理解しやすくなる効果も期待できる。グループの人数は四～五人で編成する。三人以下では、群読としての魅力が減るだけでなく、読む力が高い生徒一人の意見に任せてしまい、グループで討議する活動の利点が失われてしまうからである。また人数が六人以上であると、人数が多いという安心感から努力を要する生徒がグループ討議に十分参加できず、表現の工夫の根拠を確認せず、読む力の学習とならないことが予想されるためであ

る。

教材は平家物語の代表的な一節である「扇の的」と義経の人物像が描かれた「弓流し」を取り扱う。本文はあらすじをまとめた現代文の部分と、原文と口語訳を上下に対照させた部分からなっており、読みやすい構成になっている。①「ひやうど」「ひいふつ」「さつとぞ」といった擬音語・擬態語により情景を鮮明にする表現、②「扇の的」の登場人物の言動から人柄や性格が想像される表現、③「御定ぞ」のやり取りや「弓流し」のエピソードからわかる当時の武士の価値観が伺える表現が書かれている。これらの表現に着目させることで情景や人物の心情などが深く読み取れる教材である。今回は範読CDを聞いて群読の参考にさせ、特に①、②を生かして読ませたい。③に関しては、平家物語の一番のおもしろさではあるものの、今回は生徒の実態に即して補助的な情報として与えるに留める。第一時の学習において教師から補足説明をし、それを活用し当時の武士の価値観を群読で表現できるとなると良いと考える。

## (2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元では自分自身で考えながら、内容を捉える力の育成を図りたい。

群読では、聞き手を意識した効果的な読み方が求められる。効果的な読み方とは、情景や人物の思いが聞き手に伝わるようなものだと考えられる。根拠を明確にして描かれている情景を表す表現や登場人物の言動の意味を考えて、群読に役立てる必要がある。よって、群読の工夫をするために、根拠を明確にしながら効果的な音声表現を作り上げることを通して、考えながら文章を読ませることができると考える。

「平家物語」は文字を媒介とせず、音で感じる音楽的な要素で広まった作品である。明確な根拠に根ざして表現の特徴をつかみ、それを生かした群読で「伝える」ことを意識させ、上記の力を身につけさせたい。

## (3) (1)(2)の基盤となる言語環境や継続的な取組

読むことに関しては、全校の取組として読書活動を継続的に行っている。テスト前を除く朝の活動で10分間の朝読書の時間を設けたり、給食配膳時に給食当番以外の生徒は自席に着席させ読書を促したりして文章に触れる機会は多くある。また、図書委員会の活動として、定期的に本の紹介や読み聞かせも行われており、落ち着いて文章を読んだり、聞いたりする習慣が身に付く環境にある。

古典に関する取組としては、1年時に「竹取物語」を通して古典の世界観に触れ、歴史的仮名遣いや古語などの基礎的な学習を経験している。

6 単元の指導計画

時	学習活動	指導や支援の手立て ◇評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通しを持つ。</li> <li>・源氏と平家について知っていることを挙げる。</li> <li>・平家物語の冒頭と「扇の的」本文を通読する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のねらいと進め方について説明する。</li> <li>・社会科（歴史分野）の既習事項の振り返りをさせる。</li> <li>・歴史的背景や武士の考え方（価値観）など解説を加えながら読む。</li> </ul>
2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的内容を確認する。</li> <li>・表現の工夫を確認する。</li> <li>・内容の理解をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣いや古語の意味などを確認する。</li> <li>・対句や和漢混淆文の生み出すリズムに注目させる。</li> <li>◇歴史的仮名遣いや古語の意味に注意し、音読に役立てようとしている。</li> </ul>
4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群読の範読 CD を聞く。</li> <li>・台本の例を見て書き方を知る。</li> <li>・情景描写や登場人物の心情を考えながら、群読に生かせそうな箇所を見つける。</li> <li>・読み取った内容をもとに台本を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群読の際のイメージをつかませるために CD を聞かせる。</li> <li>・群読をする際の工夫として、なぜそのような読み方になるのか根拠として挙げられるように考えさせる。</li> <li>◇描かれている情景を想像し、群読の台本に生かしている。</li> <li>◇登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てている。</li> </ul>
6 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠を基にグループで意見を交流する。</li> <li>・意見交流をもとに、台本を改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で回収した台本のうち、手本となる台本を紹介する。</li> <li>◇根拠を明確にして、群読の方法を考えている。</li> <li>◇意見交流を生かして、台本を改善しようとしている。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の効果を伝えられるように群読の練習をする。</li> <li>・2グループで発表し合い、改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習を群読に生かすよう伝える。</li> <li>◇情景描写や登場人物の言動の意味などが伝わるような読み方をしている。</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群読を発表する。</li> <li>・学習の振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群読にあたり、工夫点も発表させる。</li> <li>◇情景描写や登場人物の言動の意味などが伝わるような読み方をしている。</li> <li>◇多くの人の発表を聞き、他者の考えを知ろうとしている。</li> </ul>

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

- ・「扇の的」の、情景や人物の心情をつかもうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
- ・「扇の的」に描かれている情景描写や人物の心情を捉えることができる。 (読むこと イ)

(2) 本時の学習活動

「扇の的」を読んで、作中の情景や人物の心情を表す群読の台本作りを行う。

(3) 本時の展開

過程	学習内容と活動	指導や支援の手立て ◇評価
導入 (10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時で作成したプリントを使用し、自分なりの台本作りを行ったことを確認する。</li> <li>○本時の学習の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良い台本を参考例として紹介する。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     人物の心情や情景をつかみ、台本を完成させよう。                 </div>		
展開 (35)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループで、各自が読み取った内容や表現の工夫とそれを生かす群読の方法を意見し合う。</li> <li>○グループ内で出た意見について、検討しながら台本にまとめていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が読み取った表現を、根拠を明らかにしながら相手に伝えるよう注意させる。</li> <li>○一部の生徒だけで議論が進まないよう、司会や記録など役割分担を決めて活動を行わせる。</li> <li>○自分の台本に新たな書き込みをする際は、色を変えて記入させる。</li> <li>◇表現から考えた情景や心情を、相手に伝えようとしている。(観察)</li> <li>◇読み取った内容を台本作りに生かしている。(ワークシート)</li> </ul>
まとめ (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習の振り返りをワークシートに記入する。</li> <li>○次時の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の読み方を他者と比較して感じたこと、台本作りを通して考えたことの振り返りを行う。</li> <li>○次時の学習に役立てるように伝える。</li> </ul>